

地球環境対応の塗料・インキ・接着剤などとして広く定着し、高機能化しつつある

水系ポリマー 3 2 品目の世界市場を調査

2011年の予測市場

シリコンエマルジョン(水処理の消泡剤など) 5,174億円(07年比128%)

HPMCセルローズ(セメントモルタル向けなど) 2,197億円(07年比126%)

水系導電性ポリマー(FPD用光学フィルム向けなど) 53億円(07年比143%)

総合マーケティングビジネスの(株)富士経済(東京都中央区日本橋小伝馬町 代表取締役 阿部 界 03-3664-5811)は、日本、アジア、ヨーロッパ、アメリカを中心に、地球環境を守るため需要が拡大している水系ポリマー 3 2 品目の市場を調査し、水系ポリマー毎の動向を分析した。その結果を報告書「2008年 水系ポリマーの世界市場動向」にまとめた。

水系ポリマー(水溶性高分子有機化合物)は、世界規模で市場が拡大している。中国では市場拡大が目覚しく、ヨーロッパやアメリカでは環境対応素材として広く定着している。日本では、大気汚染防止法の揮発性有機化合物(VOC)排出規制の改正以前から環境負荷の低減につなげる動きが活発で、塗料、インキ、接着剤などのメーカーが自主規制を行なって水系化、無溶剤化を進め、自動車業界も積極的に取り組んで来た。水系ポリマーも他のケミカル材料と同じく日本市場向けは高機能化が進んでいる。

今回の調査では国内市場の最新動向に加え、世界市場動向をレポートしている。国内の建築需要の低迷や、人口減少化社会では成長が望めないと見切り、内需型企業でも海外へ成長の軸足を移す動きが活発で、成長著しい中国など海外市場を抜きには語れない状況である。

<調査結果の概要>

全世界市場(主要水系ポリマー 3 0 品目合計)

07年 4兆832億円(前年比107.8%) 11年予測 5兆545億円(07年比123.8%)

07年の水系ポリマーは、紙加工用途に使用されるSBRラテックス6,000億円、自動車のフロントガラス中間膜向けなどで需要が拡大しているPVA4,373億円、水処理の消泡剤に使用されるシリコンエマルジョン4,040億円などの市場規模が大きい。環境規制の強化により、脱溶剤から水系化に向かう動きは世界的にあらゆる用途で進んでいる。

水系ポリマーのうち08年伸び率が前年比5%を超えるのは、水系導電性ポリマー(光学フィルム向け)の11%を始め、VPラテックス(自動車タイヤ向け)、シリコンエマルジョン、EVAエマルジョン(木工用接着向け)、アクリル・スチレンエマルジョン(塗料向け)、HPMC(セメントモルタル向け)、SBRラテックス(紙加工コーティング用)、NBRラテックス(ゴム手袋向け)、CMC(医薬・化粧品向け)、PVP(医薬・化粧品向け)の10品目に上る見込みである。

水系導電性ポリマーは70%が日本向けである。残りは、韓国、台湾、中国に販売されており、今後この地域の光学フィルム生産拡大に連れて、その比率が高まってゆく、と予測される。

SBRラテックスは、大幅な紙の生産拡大が続く中国での需要拡大が市場を牽引し、世界全体では11年に向けて年率4~6%台で需要が拡大する見通しである。

07年の国内市場は、建築向けや繊維向けの需要が縮小しているため、128万トンと前年を2%下回った。今後11年に向けて国内は横ばいの見通しである。一方、世界市場は、前年より5%増加して1,167万トンを超えた。環境規制が厳しいヨーロッパやアメリカ、あらゆる用途の市場拡大が著しい中国、建築需要が拡大しているロシア、インドなど、世界的には、水系ポリマーの需要は拡大が続いている。

用途別では、繊維・紙分野のウエイトが最も高く国内、世界市場とも26%、次いで粘接着剤・バインダ分野が日本21%、世界では19%、日本では、塗料分野が15%、世界では、医薬・化粧品・衛生材料分野が、16%の構成となっている。繊維や製紙、紙加工などの用途では、海外生産シフトが進んでおり、国内需要は減少傾向である。

ブチラールなどの樹脂原料分野は、自動車や建築用ガラスの中間膜用需要が伸びている。安全性が高いセルローズなどは今後医薬分野の需要拡大が期待される。

<注目品目の世界市場2011年予測とその要因>

今回対象にした32品目のうちで、以下の3品目に注目して11年への市場を分析した。

ポリビニールアルコール(PVA)

07年 4,373億円(前年比105.9%) 11年予測 5,350億円(07年比122.3%)

PVAは造膜性、接着性、乳化性、耐油性、耐薬品性などに優れ、ビニロン原料から始まり幅広い用途に採用されている。ビニロン繊維、液晶偏光フィルム向けのPVA需要は除外する。

国内需要は07年に9.1万トン(ビニロン用及び偏光フィルム用、輸出を除く)であり、前年に比較して1.0%増加した。国内需要は、建築や繊維、フィルムなどの用途で落ち込み、全体としてはほぼ横ばいであった。住宅着工数の減少により接着剤向け需要の回復は遅れ、繊維産業の空洞化、また繊維の包装に使用されるフィルム需要も減少が見込まれる。08年以降の需要は年1~2%減少に転ずると見られる。

世界需要が伸びており、07年は前年比5%増の105万トンであった。PVBフィルム中間膜向けなどでPVA需要は今後拡大し、年率4~5%で増加していくと見られる。

中国では10年に塩ビ生産が2,000万トンになるとされ、塩ビ重合用にPVA需要が伸びている。紙の消費量が増えており、高級紙や紙管などの需要が拡大している。07年には50万トンの需要があり、接着剤、紙、塩ビ用重合用など、あらゆる用途が拡大しており、11年に向けて今後7.5%程度で伸びていくと見られる。

アメリカの需要は12万トンで、年1%程度で伸びている。自動車向けのPVB向けが全体の25%と最も大きく、接着剤、紙向けが続いている。ヨーロッパでは、自動車向けがヨーロッパから始まったこともあり、需要も16万トンと大きい。自動車のみならず、建築、住宅用にも広がっており、東欧のビルラッシュでPVB需要が伸びている。インド、ロシアなどで需要が大きい。最大手メーカーのクラレはロシアでの事業拡大に積極的である。クラレは国内および世界市場でトップシェアを占め、供給能力を高めて、グローバル展開を強化している。

高吸水性樹脂(SAP)

07年 2,884億円(前年比107.6%) 11年予測 3,565億円(07年比123.6%)

アクリル酸を原料とし、水溶液重合あるいは懸濁重合によって製造される。生理用品や紙おむつなどの吸収体向けがほとんどである。水溶液重合製品は生産コストを抑えられる点でメリットがあり、一方、懸濁重合製品は、衛生材料にした時の吸水速度、流動性のコントロールがし易い。

07年の日本国内需要は、前年並みの12.6万トン、金額では、前年から3%伸びて260億円となった。世界の需要は、140万トン、2,884億円と金額ベースでは7.6%の伸び。紙おむつが普及している日本、アメリカ、ヨーロッパの需要の伸びは低いが、中国、東南アジア、中南米などで普及が進み、需要が伸びている。今後も需要はさらに高まり、11年に向けて、年4~5%で拡大する見通しである。

水系導電性ポリマー

07年 37億円(前年比112.1%) 11年予測 53億円(07年比143.2%)

電気伝導性を有するポリマーであり、主な用途としてコンデンサ用材料や帯電防止剤、電極材料、防錆塗料などが挙げられる。

07年は180トン、37億円の世界市場となった。主力用途が光学フィルム向け帯電防止コーティングであるため全体の約70%が日本向けであり、残りは光学フィルムが生産されている韓国、台湾、中国向けである。韓国や台湾、中国では光学フィルムの生産拡大が進んでおり、今後比率が高まっていくと見込まれる。

07年の国内市場は130トン、27億円と推定される。半導体など電子部品のキャリアテープや光学フィルムの帯電防止コーティングが主力用途であり、80%以上が光学フィルム用の帯電防止コーティング向けとなっている。光学フィルム市場は液晶ディスプレイなどFPDの生産拡大に伴って年率20%前後で成長しているが、徐々に成長率は鈍化している。全ての光学フィルムに水系導電性ポリマーが採用されているわけではなく、今後水系導電性ポリマーの需要の伸びは11年に向けて年率6~7%となる見通しである。

一方で透明電極材料向けでの開発や需要開拓が進められており、タッチパネルや太陽電池、有機EL、電子ペーパーなどで広範囲に採用が期待されている。

シリコーンエマルジョン

07年 4,040億円(前年比107.0%) 11年予測 5,174億円(07年比128.1%)

シリコーンオイルを水中に細かく分散させたもので、高温安定性、非粘着性、撥水性、基材への伸展性など

に優れる。主用途は、表面張力の低いことを利用した消泡剤と排水用水処理である。07年の世界市場では、消泡剤用途が50%を超えており、化粧品、離型剤用途と続く。化粧品原料との相溶性が高く、化粧品向け用途が26%を占める。化粧品自体は成熟産業で、伸びは鈍化しているが、シリコンエマルジョンでしっとり感などを付与することができ、年5.3%で需要は拡大している。

07年の世界需要は50万トンであった。環境規制の強化で水系化が進み、日本やアメリカ、ヨーロッパ、中国、インドなどで需要が伸びている。シリコンエマルジョンの世界需要は11年に向けて今後年6%程度で伸びていくと見られる。

中国の需要は日本を超えており、年6~8万トンである。繊維加工基地が中国へ移動し、消泡剤向けなどでも需要が拡大しており、需要の伸び率は年10%を超えている。アメリカ(13~18万トン)離型剤向け需要が多く、化粧品関連向け需要も多い。ヨーロッパ(7万~10万トン)も離型剤向け需要や化粧品関連向け需要が多い。

シリコンの持つ高機能性や、環境対応性能が市場で評価され、日本、アメリカ、ヨーロッパ、中国、インドなどで需要はさらに拡大する見通しである。

HPMC(ヒドロキシプロピルメチル)セルロース

07年 1,742億円(前年比106.5%) 11年予測 2,197億円(07年比126.1%)

高純度パルプを原料としたセルロース繊維を水酸化ナトリウム、塩化メチル、プロピレンオキサイトと反応させて製造され、建築、化粧品、セラミックス、医薬品などの分野を中心に幅広い用途で採用される水溶性の非イオン性セルロース誘導体である。

世界各地でセメントモルタル、セメント系押出製品などの建築用途に使われており全体の41%を占める。世界各地において建築用、パーソナルケア用に安定した需要、欧米を中心に医薬品向け需要が高まって、需要が拡大している。

07年の世界市場は15万トンで、今後は11年に向けて年率5~6%で需要が拡大する見通しである。国内市場は1.3万トン、前年に比較して4%増加した。建材向けや化粧品向けなどの主要用途で安定的な需要のほか、セラミックや医薬品向けなどで需要が伸びている。国内市場は、広範囲の用途で需要が拡大し、今後年5~6%の伸びで推移するものと見られる。中国は建築用のほか、塩ビの生産拠点が集中しているため、塩ビ重合用途が多い。建築需要や塩ビ生産は今後も高い伸び率で伸びることが想定され、需要の伸びも高い。

以上

<調査の概要>

調査方法 当社専門調査員による関係企業への面接取材を主体に、各社有価証券報告書、その他公表データ類を参考に分析

調査対象品目数 32品目

調査時期：2008年3月~5月

資料タイトル : 「2008年 水系ポリマーの世界市場動向」
体 裁 : A4判 243頁
価 格 : 100,000円(税込105,000円)
調 査・編 集 : 富士経済 東京マーケティング本部 第3事業部
TEL03-3664-5831 FAX03-3661-9778
発 行 所 : 株式会社 富士経済
〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町2-5 F・Kビル
TEL : 03-3664-5811 (代) FAX 03-3661-0165
e-mail : info@fuji-keizai.co.jp

この情報はインターネットでもご覧いただけます。URL : <http://www.group.fuji-keizai.co.jp/>
<https://www.fuji-keizai.co.jp/>

*****本件に関するお問い合わせは下記までお願いします。*****

富士経済グループ 広報部 TEL 03-3664-5697 0120-156-711